

【(公社) 土木学会 環境賞 (Ⅱグループ)】

2. 「国内初の環境管理計画策定とラムサール条約登録湿地の環境保全に向けた取組み —北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事—」

「国内初の環境管理計画策定とラムサール条約登録湿地の環境保全に向けた取組み—北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事—」が、(公社)土木学会の環境賞(Ⅱグループ)^(※1)を受賞しました。

中池見湿地は福井県敦賀市のほぼ中央に位置し、平成24年7月にラムサール条約に登録された低層湿原で、湿原中央部に地下45mにおよび堆積する泥炭層や、江戸時代以降の新田開発により育まれた水辺環境による多様な動植物相を有することが特徴です。

北陸新幹線は当初より、中池見湿地の東側を通過する計画とされていましたが、ラムサール条約の登録を受け、中池見湿地の環境を保全するため、湿地の南東部へ迂回することで環境影響を小さくするようルート変更を行いました。また、水文、動植物の専門家、行政・市民(NGO、NPO等)を加えた委員会を計画段階から開催し、多角的な意見交換や迅速な意思決定、情報の透明化を図ったほか、国内初の環境管理計画を策定し、環境影響の適切な回避・軽減・代償措置を建設事業の各段階において実施しました。さらには継続的なモニタリング調査を行って湿地環境への影響の評価を行いました。

これらの継続的な取組みにより、深山トンネルの掘削に伴うラムサール条約湿地への影響最小化を実現し、このことが環境保全に向けた画期的なプロジェクトと認められ、受賞に至りました。



北陸新幹線ルート図

中池見湿地の多様な動植物相

※1 土木技術・システムを開発・運用し、環境の保全・改善・創造に貢献した画期的なプロジェクトに贈られる賞。

(参考) 令和5年度土木学会環境賞

(https://www.jsce.or.jp/prize/prize_list/3_kankyo.shtml#s2023)